強制と矯正を手放すことは・・・

11 月 17 日（火）

　新任の頃、副担任をしてくださったベテランの先生が、「学級通信に対抗できるのは学級通信や！」と言われていたのを思い出しました。当時は、コンピューター（PC）も高価で買えなかったので、手書きして、印刷したりしていました。ワープロになり、フロッピーディスクに保存できるようになりましたが、今から思えば結構大変でした。ある記事にこんな体験談が載っていました。



　～ここから～　ピアノ教室の先生をされているお母さんのお話です。「娘にもピアノが弾けるようになってほしいなと思って、小さい頃から私が教えていたのですが、弾き方を直そうとすると反発して、だんだん練習しなくなってしまいました。それでも、ピアノは好きなのでしょう。時々、遊びで弾き始めます。でも、私はそのラフな弾き方が許せなくて、ついつい、『そうじゃなくてこうでしょう！』と正そうとしてしまいました。反発され続け、親子関係はボロボロになりました。コーチングに出会って、『自分と子どもは違う存在』、『子どもの意思を尊重する』ということを知りました。ピアノに限らず、『そんなことを考えていたんだね！おもしろいね！すごいね！』と受けとめ、娘の気持ちを尊重するようにしました。高校生になって、『私、音大に行く！』と言い始めました。正直、こんな我流の弾き方では無理だと私は思うのですが、もう否定することはやめました。何より、娘が『自分はこうしたい！』と自分で考えて、私に話してくれたことがとても嬉しかったんです。私がダメ出しをしていた頃は、そんなことは到底考えられない状況でした。どんな結果であっても、本人が決めたことなら、納得できると思います。私はずっと味方として応援していきたいと思っています。

〇朝学テスト（国語　数学　英語）毎週木曜日実施